

## 平成8年度国際地域研究所活動状況

### 〔第1回研究会〕

4月5日（金）15：00～17：00

- ① 連絡事項と本年度計画
- ② 鄧教授を囲んで研究座談会

中国の民族問題—満族を中心に— 通訳：金 連紘

出席者（田中，滝澤，小川，菊池，津田，畑中）

4月17日（水）メンバー打ち合わせ

・平成8年度研究会の運営について，畑中が説明。

5月29日（水）国際地域研究所運営委員会

出席者（川端，畑中，村上，今福，井東，吉川，佐藤(方)，大山，愛知）

【議題】・平成8年度国際地域研究所方針について

・シンポジウム開催について。

### 〔第2回研究会〕

7月3日（水）13：00～18：00

- ① 和解による紛争解決について—中米紛争の事例—

発表者 田中 高

- ② 民族，20世紀の証言—リトアニアの事例—

発表者 畑中幸子

出席者（滝澤，小川，峯，原田，田中，畑中）

10月16日（水）メンバー打ち合わせ

・国際シンポジウム，ならびに研究会の開催について畑中より説明。また，本学研究所より招待するフセイン・ソロモン氏について，シンポジウム終了後，本学に来学され研究会や学生向けの講義を行う旨，説明を行う。

10月19日（土）9：30～20：00

国際シンポジウム「南アフリカ：国民和解と持続的発展の展望」

場所：立命館大学西園寺記念館

主催 中部大学国際地域研究所

立命館大学国際地域研究所

京都南部アフリカ研究センター（RECSAK）

※詳細は別紙プログラム参照

〔第3回研究会〕

10月23日（水）13：00～18：00

テーマ Illegal Population flows into South Africa

講師 フセイン・ソロモン氏

出席者（吉田，原田，田中，小川，滝澤，峯，畑中，院生2名）

10月24日（木）15：10～16：50

学生向け講演会 テーマ「南アフリカの黒人社会の未来」

（参加者60名）講師 フセイン・ソロモン氏

〔第4回研究会〕

11月13日（水）13：00～18：00

① アジアの相互補完的発展と中国 発表者 横田高明

② 地域紛争とアメリカの対応——冷戦後を中心に——

発表者 小川敏子

出席者（峯，原田，田中，滝澤，小川，畑中，横田，院生3名）

〔第5回研究会〕

平成9年1月7日（火）15：00～18：00

① 自国を離れる権利・帰る権利から自由に留まる権利へ

——難民・人の大量移動と人権・人道 発表者 滝澤美佐子

② Benedict Andersonのナショナリズム論再考 発表者 原田太津男

出席者（峯，原田，田中，滝澤，小川，畑中）

共同研究メンバー全員 中間報告書作成（2月末日）

# 国際シンポジウム

## 「南アフリカ；国民和解と持続的発展の展望」

主催：中部大学国際地域研究所／立命館大学国際地域研究所／京都南部アフリカ研究センター（RECSAK）

開催日時；10月19日（土）午前9時30分～午後5時30分（午後5時30分～レセプション）  
場所；立命館大学西園寺記念館（国際関係学部）

### 【午前の部 司会；峯 陽一（中部大学国際関係学部）】

午前9：30 開会の挨拶；関 寛治（立命館大学国際地域研究所所長）

午前10：00 第一セッション 座長；川端正久（龍谷大学法学部）

報告者；Hussein Solomon（Institute for Defence Policy）

テーマ；「南部アフリカにおける地域安全保障問題」

コメント；佐藤千鶴子（立命館大学大学院国際関係研究科博士前期課程）

午前11：00 第二セッション 座長；吉国恒雄（専修大学商学部）

ペーパー参加；Tom Lodge（Department of Political Studies, University of Witwatersrand）

テーマ；「国民党離脱後の南アフリカにおける政治状況」

代理報告；藤本義彦（広島経済大学経済学部）

午前11：30～午後1：00 昼食（※付近に店はございませんので、なるべく各自で御用意下さい。なお、当  
方では軽食を有料にて若干御用意いたします。600円～700円程度。）

### 【午後の部 司会；佐藤 誠（立命館大学国際関係学部）】

午後1：00 第三セッション 座長；山崎圭一（横浜国立大学経済学部）

報告者；Doug Hindson（Institute for Social and Economic Research, University of Durban-Westville）

テーマ；「大都市圏における持続可能な開発——ダーバンの事例から——」

コメント；西浦昭雄（創価大学大学院経済学研究科博士後期課程）

午後2：00 第四セッション【同時通訳付き】 座長；大林 稔（龍谷大学経済学部）

テーマ；「アジアの経験から」

コメント；Wei-Penn Chang（台湾 淡江大学）

Surichai Wan'gao（タイ チュラロンコン大学）

Arief Budiman（インドネシア 元クリステンサトヤワカナ大学）

午後3：00 パネルディスカッション【同時通訳付き】

Lionel Cliffe（Department of Politics, University of Leeds）

林 晃史（アジア経済研究所地域研究部）

高梨直樹（日本国際ボランティアセンター）

\*同時通訳；小松洋子

河本木の実

午後5：00 閉会の挨拶；畑中幸子（中部大学国際地域研究所所長）

午後5：30 レセプション（※会費1,000円）挨拶；佐々木 建（RECSAK）

21 世紀の世界システムと民族問題

- ① 人の移動（移民・難民・外国人労働者の問題）・畑中・滝澤  
② 地域紛争 ・小川（敏）・田中  
③ 多民族国家 ・横田・峯・原田  
計 7 名

課 題	所 属	氏 名
人の移動	国際関係学科	滝澤美佐子
人の移動	国際文化学科	畑中幸子
地域紛争	国際関係学科	小川敏子
地域紛争	国際関係学科	田中高
多民族国家	国際関係学科	横田高明
多民族国家	国際関係学科	原田太津男
多民族国家	国際関係学科	峯陽一

## 鄧 偉教授 プロフィール

現在、遼寧大学中文系教授  
満学研究センター副所長

1936年 通化で生まれる。

1958年 東北人民大学（現吉林大学）中国言語文学科卒業、遼寧大学に配属。

1957年 右翼分子のレッテルを貼られ、強制労働、1979年 名誉回復。

鄧教授は満族文学研究において中心的な役割を果たしておられるほか、ご自身も詩や小説を発表してこられた。今回の来日を機会に日本の満州学の碩学と懇談され、本学国際地域研究所を訪問された。鄧教授は懇談会のため「満族文学研究の回顧と展望」の論文を配布された。

### 鄧偉教授の講演要旨

中国の民族問題——満族と満文学より——

中国における民族は国家を統治する主民族の漢族と55の少数民族が挙げられる。約9,900万の少数民族中、満族は約1,000万に及ぶ。満族人口の約半分は遼寧省に居住する。満族の人口が10年前に比較して急激に増加したのは中央の政策に負うところが大きい。少数民族には産児制限がなかったこと、教育面など種々の優遇政策が影響してきた。現在では満族に関して、両親が満族という条件下で子供は二人までという制限が設けられている。民族も姓も子供は父系による。

中国政府は民族平等をスローガンにしているが、現実には漢族中心である。身近な一例は満族文学史の編纂からもいえる。この編纂は1989年に始められた。一卷は清代以前、二〜三巻は清代、四巻は現代、五巻は民間文学の全五巻から成る。100万字以上のこの文学史は1991年、すでに脱稿し、1992年国の鑑定に合格した。一卷だけが刊行されたが、未だに経費がないため5年たつても未刊である。満族文学の研究活動としては1979年より現在まで年一回、全国大会を開き研究の交換をおこなっている。その他地域毎にそれぞれ研究会がもたれている。

そもそも満族の起源は周代までさか上ることが出来るが、政権を樹立したのは三回で、渤海国、金、清である。満族文学に貢献した作家は納蘭性徳、常安、宝廷、宗韶、毓俊、曹雪芹、老舎などが代表的である。

文化革命後、1978年、中国科学院の院長の胡喬木が訪日し、日本で満州学の立派な文献目録が出来上がっていることに大きなショックを受け、帰国後政府に進言し、満学研究への助成を認めさせた。これ以後、今日に至るまで満学及び満族文学の研究が盛んになったのである。